

告 辞



「春風や闘志いだきて丘に立つ」 高浜虚子

この句の主人公のイメージが、今卒業証書を手にした皆さんの姿と重なって見えます。関川村立関川小学校の第十五回卒業証書授与式にあたり、関川村教育委員会を代表し、お祝いの言葉を申し上げます。

卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。皆さんは、六年間の教育の課程を終え、本日ここに関川小学校をめでたく卒業することとなりました。皆さんの輝かしい門出を心からお祝い申し上げます。

元気いっぱいの皆さんは、あのコロナ禍の苦しい時を乗り越え、勉強に学校行事に、そして児童会活動・地域のスポーツや文化活動に進んで取り組み、自分を磨いてきました。時に友達とぶつかったり、先生方に叱られたりしたこともあったでしょう。しかし、どれも自分の成長には必要なことだったと思います。特に六年生になったこの一年間は、関川小学校のリーダーとして、その力を十分発揮し、後輩のよき手本となり頑張りました。

みなさんは、関川村の前田三作という人を知っていますか。小学校三・四年生社会科資料集「私たちの関川村」でも取り上げられている「金俣用水」を拓いた人です。

昭和のはじめ、日本全体の食糧不足から新しい田をつくり、米を多くとりたいという願いが高まりました。そこで前田さんは、金俣集落の後ろに広がる上谷地内（かみやちない）に、大石川へ流れ込む小川の上流から水を引こうと考えました。ところが村もお金のかかるこの工事に控えめで、人々はそんなことはとてもできないだろうと笑っていました。しかし、前田さんの呼びかけに、心ある地域の人々が団結し、一部の人々の反対や水路の崩れ・岩を掘るためのトンネル工事などの困難を乗り越え、四年の歳月をかけて、昭和二十二年ついに完成させました。この工事の中心になった前田三作さんは、完成前年に工事の苦勞と疲れのために亡くなりましたが、今もこの水路は田を潤し、人々に喜ばれています。前田さんの努力は、その時だけでなく、未来につながっていたのです。

卒業生の皆さん、これからの社会や地域はあなた達が創っていきます。進んで自分にできることを考えて、行動することのできる人になってほしいと願っています。そして、生まれ育ったふるさと関川を愛し、学び続ける人として、新たな気持ちで努力して行ってください。

そしてもう一つ。私からの願いは、今日お家に帰ったら、お父さんやお母さんに、「6年間ありがとうございました。」としっかりと感謝を伝えてください。あなた達が生まれて今日のこの日を迎えるために、苦労をいとわず愛情を注ぎ、誰よりもあなたの幸せを考えてくれているからです。支えてくれている家族に、素直に感謝を伝えられる人になってください。

在校生の皆さん、皆さんは先輩たちが培ってきた関川小学校のよき伝統と校風をしっかりと受け継ぎ、関川村の大切な一人として、持てる力を存分に発揮し、いろいろなことに挑戦して行ってください。期待しています。

保護者の皆様におかれましては、長いようで短かった義務教育の六年間、様々な出来事があったことと思いますが、今このように、立派に成長された姿を御覧になられ、さぞ感慨深いものがあると拝察いたします。心からお祝いを申し上げます。関川村は一小・一中です。今後も情報を共有し、しっかり連携して教育活動を進めますので、ご安心ください。また、中学生になると身体も心もさらに成長し、いろいろと心配な面も出てくるかもしれませんが、教職員を信頼し、今後ともお子さんの心を離さず、自立への支えを惜しみなく注がれますことをお願い申し上げます。

今日までご指導いただきました須貝学校長先生はじめ教職員の皆様、熱意あふれるご指導は、卒業生の心の支えとして、これからも生き続けるでありましょう。改めて、深く敬意と感謝を申し上げます。ありがとうございました。また、地域の皆様からは、常に温かく親身になってお支えいただきましたことに、重ねて御礼申し上げます。

皆さんの中学校生活での更なる成長と活躍を心からお祈り申し上げまして、関川村教育委員会の告辞といたします。

令和七年三月二十四日

関川村教育長 津野 庄一郎